

行政調査レポート

議員会会長 大金 伊一

17名の議員の参加により、10月23・24日に行政調査を行いましたので、その結果を報告いたします。

調査事件は、山梨県北杜市の廃校を利用した地域活性化施設の調査及び市川三郷町の議会運営等の状況調査でした。現在、那珂川町では、馬頭地区において、学校の統廃合が進められ、統合後の学校跡地の活用についても検討しているかなければなりません。そこで、北杜市の廃校を利用した施設について触れてみます。

北杜市は、山梨県の北西部に位置し、八ヶ岳連峰や南アルプスなど日本を代表する美しい山岳景観に囲まれ、豊富な水資源、高原性の気候、歴史的な町並み、滞在型温泉リゾート地など、豊かな資源に恵まれた地域で、平成16・18年の2度の合併を経て誕生した、人口約5万人の市です。北杜市の「三代校舎」が、昭和60年まで小学校として使用していましたが、過疎化による人口減少、高齢化による児童数の減少で廃校になった明治・大正・昭

和に建てられた3つの校舎を復元し、第三セクター及び市が運営する体験型リゾート施設です。

山梨県の指定文化財であり、歴史資料館として活用されている「明治校舎」は、藤村式と呼ばれる「疑洋風建築」で、明治8年に完成したこの種の建築物としては、現存する日本最古の建物です。農業体験施設である「大正校舎」は、田植え、稲刈り、ほうとう作りなどが楽しめる施設となっています。観光施設である「昭和校舎」は、「おいしい

学校」として、レストラン・パン工房・特産品コーナーや宿泊施設などがあります。

全国でも廃校が増加するなか、各自自治体では、その有効活用の取り組みが行われており、地域の活性化や都市と農村との交流促進、創業の支援などを担う施設として生まれ変わっています。

学校施設は、地区住民の愛着が強い施設であり、また、地域コミュニティのシンボルの施設でもあることから、廃校後もその保存・活用に地区住民との協議の機会を十分に設けることが、重要であると再認識した次第です。

以上、行政調査の報告いたします。



◆議会傍聴

平成19年第7回那珂川町議会定例会は、12月4日開会の予定です。

議会のうごき

平成19年8月

- 22日(水) 県土整備委員会現地調査
- 24日(金) 議会全員協議会
議会改革調査特別委員会
- 29日(水) 議会運営委員会

9月

- 5日(水)~ 平成19年第5回定例会
- 6日(木) 産業建設常任委員会
- 7日(金) 総務企画常任委員会
教育民生常任委員会
産業建設常任委員会
- 27日(木) 南那須地区広域行政議会

10月

- 15日(月) 議会広報特別委員会
- 23日(火)~ 議員行政調査
- 25日(木) 議会運営委員会
- 26日(金) 県議会市町村議会議長懇談会
- 29日(月) 平成19年第6回臨時会
議会広報特別委員会
- 30日(火) 県町村議会議長会定期総会

11月

- 6日(火) 県町村議会議長会議員研修

編集後記

▽ 今年も実りの秋を迎えました。9月に日本を襲った台風による稲への影響が心配されましたが、大きな被害も無く、また那珂川町の美味しいお米が食べられることに、大きな喜びを感じております。

▽ さて、安部首相の突然の辞任により、福田新政権が誕生いたしました。私達、地方に住む者が最も国に求めることは「地方格差の改善」ではないかと思えます。景気は上向きと云われても、地方にとってはどこ吹く風。疲弊した状況が永く続いております。

▽ 頑張る地方を如何に国が支援していくか、また、地方が如何に国を支えられるかの可能性を、国と地方が一体となって考えていく必要があると思えます。地方が良くなるとして始めて国全体が良くなる。新政権には、この格差問題について真剣に取り組んでいただきたいと切に願います。

▽ 2周年を迎えた那珂川町。議員一同、市民の皆様と共に「実りある」町政実現に頑張ってくださいと思います。

議会広報特別委員会委員

鈴木 雅仁